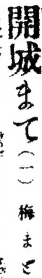


岡次郎も赤門出身の法學士であるが

「……突然、
「一丁つて兄さん可笑やありませんか、號
り外は何も變つた出来事のおつた時に
いでんでせう、それなのに外國人が來て釣
出でて遊んでる位」院外に出るのは、新聞
随分ですわね。」

然と家を出た



て夫れでは一寸見物に往かうと日曜（四
十九日）を幸ひに出て行くことになつた
南大門驛に馳せつけて時間表を見ると開
行きは

●韓賊待伏に罹る 阿清が浦に曳網も度重なれば驚散するとも知らぬ浅智恵の韓人泥棒は去る二十一日の夜京城旭町一丁目清水工場の木戸福太郎の仕事場に忍び入り鋸六枚を盗み去り其の味を覺て翌二十二日の夜も忍び込むと福太郎も斯くもあらんと待ち伏せを爲し居りて引つ捕へたる韓人は南大門外商會金谷淳(五三)といふ淺きなりしと

くこれや韓の都跡とも稱ふる者なるべく
行く人電車の人何れ同じ毛色のヨボ建中
構な事に腕を抱え眺め入り立寄の查公迄
面白たて約調子を合せて此の處鐘路の
中にて約時間餘りの御遊興は道が／＼
同處迄も太平の事かと茲に締めるになん

各
種
銘
茶
販
賣
所

京
城
本
町
五
丁
目

業
専
富
士
の
里
茶
舗

●韓國寫真會 在京の寫真術嗜好家は

遂に就けても御覽の通り澤山の痘痕の
 如何にも見苦ければ并を隠さんか爲めに
 女裝を爲し被衣を被りたる次第なりと申し
 立てしが查公は然らず住所は何處かと尋ね
 たれば布徳門明禮宮留守番長薩方同居柳在
 錫なりとのことに早速同人に引き立て
 山本禰托醫を伴ひ同所にに至りたるに又々
 々柳在錫（金昌東）の兩名の患者あるを
 發見せしかば同醫師は直ちに相當の手當
 を加へ消毒を施したりと

福岡縣の者にて安東

桃や櫻の花は今を盛りと咲
も云はれぬ折柄世の粹客様
を枉させられたしとなん

貸待
席合

京城

深堀商店
青山
南山町二丁目

午前七時十分發	同	九時二十三分
同十時五十分發	同	午後一時四十三分
午後三時十分發	同	五時五十四分
同七時發	同	

となつて、演軍費一圓八十錢とある
 時計を驚くと九時であつて七時十分の演
 には間に合う筈もなく十時五十分には二
 間足らず持たねばならす演軍發着の時間
 を持つて居たならこんなぶまを見るので
 ないでございば

チョロンガー「時間表が有ても駄目です

着て居る。車は時表は、
 着て居る。足踏でもあるそいが會社の事務も手に付
 いて近思ひつゝ逆上詰めて通ひ行き蒲團は
 しい反物結構小使錢無論と云ふ迄金があ
 たかは知らぬが随分苦しい苦面露面をし
 慕姐さんに入れた上上げた處から追々貧乏の
 目も宜しからすなり其の後は同じく旭町
 丁目の岡田組とやらに寄食の身分極めて
 じめの朝夕もあつたが夫れで慕姐さん
 はことは寢ては夢起きては現まほろしの片

仁川朝日組は仁川にても尤も古き人夫受負
 業をなし居るが爲め實業家間の信用も厚く
 組合の基礎も他の組に比し比較的堅固なる
 が如何なる行進ひにや過日組員の某は荷
 より通關手續を依頼され其税金として三千
 餘圓を預けられしを其處着照し國元に逃亡
 したりとはサテも信用あると思ひし朝日

仁川朝日組員某の抄帶
 如き披露仁川より舞ひ込めたれば記す、原

本日迄

三丁目梅の家で縣人会を開張す
 來る廿五日土曜日午後六時より大和町三
 丁目梅乃屋に於て春季縣人会を開く御告知
 日は學部内柳田節方へ廿三日迄に御通知
 下俵會
 但會費金一圓當日御持參の事

病院に車夫たりし田中觀次郎が脚氣病に罹り西湖の白竹龜太郎方へ轉地療養に行かんとして去る二十二日友奴數點と石油桶に入外に砂糖五斤と外套とを擔車に擔はせ且觀次郎が其旨南蒲郡警察へ届け出る之間觀次郎は其途中で紛失したと届出で荷物の主が途中で紛失したと届出で荷物は無事に荷主に戻りたりとは目出度し

衣囊の金が紛失 若草町一丁目の左室

●●至急廣告●●
 パナマ帽 臺灣製帽製品
 淡水帽 合資會社
 右今般韓國一手販賣特約候に仕
 御便宜仕御注文に相應じ取次和
 實可仕候間多少に不拘御用命被
 下度候
 猶製品輸入の都合有之候に附々
 季節柄此際至急御申越し願上候
 明治四十一年四月
 製造元

來る二十五日(土曜日)
 廣 告
 迅速なる運送
 迅速を特色として運送に従事
 時間御用命奉願上候
 京城南大門外吉野町

此の内釜山へ行くつもりで八時十分の車に乗るべく時計を見つめて七時四十に此の驛に来ると一足先へども何ぞ言はず流車は「グ」と屁を放つて出て往たのですよし

と踏るをそんなことが有るものかと言ふと事實なのですから夫れでは韓國時間の間達ではなかつたかと思ひを漏して實は其の間達でしたといふ

今は韓國時間に一定せられたからそんな遠の生ずることもないから此の表を寫し

瀬も忘るればこそ誓ひ此の身は擔夫車夫に
 分り下つても董梧の處に通はではと夫れ
 もく大した御熱心は善かつたが董梧は前
 つも一寸書いた通り竹さん以外に今一人こ
 は竹さんよりも最少し否や些つとばかり
 全愛ひのあり此の男は殆ど眼鏡で五つ紋
 朝鮮通で誠にハヤ何とも様子の好い事と
 らつた折角ながら竹さんは如何あつてお
 の男に較べては二の町でも云ふ可きであ
 處から隨て董梧の待遇にも甲種乙種と何
 事は無い至で自分の髪丸見た様な段取り

成には、
に
可で云此を
康賜河なるものは豫て同管內李順九より朝
鮮カリボを金九十兩にて同族方を依頼され
居かりしを二三日前相當の女を世話せざれば
右の女は中署管内居某の雇人にて雇主は何時
の間にやら女の姿を隠したりしかば大に
驚き血眼になりて所々方々を尋ね廻りし處
前記の李方に奉公し居るを發見せしかば直に
ちに女を連れ歸りたるが連れ歸られたる者

ヨロの刃傷騒ぎ　西署阿眠管內

●五雲會番組 當地諸曲家の組織に成
五雲會には來る五月三日午後一時本願
別院に於て開會せる云ふ番組は左の如
加茂 田中玄氏、ツレ 本田氏、中村三
巴 兒島氏、野田氏
熊野 寺尾氏、ツレ 竹田氏、岩崎氏
辛塔婆小町 西尾氏、鍋島氏、ツレ 松森
小福曾我 小谷氏、ツレ 熊谷氏、伊
氏、小毛 鮎貝氏

●本願寺供養法會 昨日龍山より蓮經
たる梵鐘無事同寺へ到着し今廿四日午後

魯春成、荒経河の三名を連れて龍山元町四丁目、津田國次郎の二作場に至り此の三人を待たせ置き腹掛を座敷に脱ぎ捨て一寸階に上りたる間に腹掛の衣簑に入れ置きわたり金十三圓紛失したりとぞ

○靴泥棒
は元來靴泥棒と本職とし現に昨多より本奉に掛つて密みに數にても四十餘足の多きに達したるが一日日警署署所に探知し本署

夏物 荷揃
新流行洋傘類
婦人用レース類
帽子、シヤツ類

臺灣製帽合資會社
韓國一手販賣所
京城三好町一丁目三番戶歌舞伎座隣
電氣機械並に西洋家具
製造販賣所
藤原商會
電話 八百五十八

正午 嬰忠 璽に於て
 仁南 高同志 懇親會
 開催 致候間 南高人士
 萬障 御繰合せ 御賣賁
 の程 希望 致候
 發起人 南高同志會
 一會 費金 一一圓
 一申 込期日 四月二十三
 京城本町二丁目 林田金次
 電話二二二

つて置けといふと日本では流革室内など
ふ番物が出て居るからこんな面割を見
こともないにど不性々々に寫し取る
彼れ是れ時間を潰しても二時間と云は
もので時計を見れば尚ほ一時間ばかり
『序のことに盡版でも喰つて往かうで
ないか』
といふとチヤンガリは大盛成で此商の往
は親でた給仕が別類で飲食費が廉價で
敷が奇麗で紙幣が鈍馬で釣説を間違へ

知らずに己の心が驚の心と一人許して居
 たが本年一月頭の事とか竹さん例に依つ
 逢いたかつた薫さんと門口から聲を蒐け
 二階に上つた迄は善かつたが之はし
 薫君は風邪の氣味とかにて顔すら見せず
 れでも大事の竹さんとか故共其儘さ返
 して忍びなかつたと思つて二階に竹さん
 一人寝かしたがる豈らんや何ぞ知らんや
 の夜は彼の五つ紋の脚靴先生が来る筈に

此を以て夫に引致したり

醉ふは他愛なし　花時は何も韓國
みには限るまじけれど道がは鶏の都の此夜は漢京は穴から夜の明けたよりも未だ御世々平にて誠に結構と雖ひ難す幸出候き事

二十四日午後二時
時權初式を行ひ引續き供養法會説教及饗
等ある由

梵鐘供養法會(雨天順延)
南山本願寺別院


大聖教會の景況 本派本願寺の韓國
教師嚴當圓氏が韓國布教の爲め大聖教會
起し佛教信者の朴水默大に専ら教會の概
に從事しつゝありしが近頃に至り信徒界

廣 告

花柳病專門
十字病院

院長 望月 憲庵
老松町 帝國醫科大學選科畢業

本院眼科最新式機械
眼科全般的治療を
更に設備し、最新式機械
を造設し、眼科全般的治療を
又設備し、最新式機械
を造設し、眼科全般的治療を



 一旅行用膝掛其他
 京成本町
 辻屋本支店
 電話 本店二四八
 支店三六六
 フツマ新調
 並ニ張替
 京城旭町三丁目三月旅館前

店番番

場所
京城大和町
京城本町三丁目
伊藤友
電話四
雜賀貞

會席
御料理
開店御披露

壽し並二仕出し
京城長谷川町二丁目

未廣亭

柴物並先長

分は失れることもあらずなら同じ非常。
 なら此の待合に限るこの例を立てる。
 「釣針を餘分に取つて喜ぶなど朝鮮
 性が僕は大嫌ひヒや日本人は茶代にと
 て餘分に拂つて行くことはあるが聞
 餘分に呉れた金を數つて取るなど人
 不都合な者は一人もないぞ」
 と云ふしなめること
 チヨウガ。天れでも當道児になり
 んでせう。
 と平氣でいふ。

チャンと宵の村から電話があつて驚けられ長くもあらぬ首筋を鶴の様に突き出し待つて居つたとは一方二階に一人疑の竹人無論知る者はなかつたのだ。またある

韓人殺しの捕縛

去る十八日午前五時頃仁川半洞の金昌順門口に於て鎮南捕生の韓人崔在石(一七)と下仁洞途中の帆船順榮丸船主久保五郎の爲めに斃れたる及を以て腹部に膀胱する実傷を受けたが久保は直ちに現

餘り
の多かりし時、此の邊に於ては御視ひ
たる後に宮内官の甲乙を寄矢かりて
略事これを見れば多くも陛下の當り矢より
最少し賤ふた程の芽出でることや地方に
暴徒く騒ぎて日本人が一人二人殺さ
良民が塗炭に苦しんだ處で夫れ等は統監
サのこれも至つて骨の折れの仕事イハバ
何ぞも難有い世の中ではあるが之れは一
日のこと都大路は神路の逢ひ手前の橋に
よて一人のヨボ先生何處で食し召した満

千數名に及び尙ほ益々増加するの状況
此程西大門外松坊にて布教したる際
さき男婦信衆八九十名に達したりと
●安徽彰德當鐵番號
本月(舊)三月執行したる清國安徽省の
當鐵番號に左の如し(十二日發定)
一等 四五七四
二等 三三四〇
三等 八四一七
八六六八
八六六二

●待合所と友装
大正十二年午
前
南大門停車場待合所の開と休憩し

開店御披露
 會席御料理
 並に仕出し
 右今般開店仕込大勉強を旨と致し
 候間賑々敬御光來之程奉願
 候敬白
 京城長谷町二丁目五十番
 開月亭

免 許 內務省
 產婆
 藤井 八
 京域永樂町三丁目

本店 仁川理事廳通（電話三三三番）
 桑澤 工俣
 迅速叫聲を旨とし染色艶麗にして條
 なるは本工場の特有なり
 龍山元町四丁目 元今村跡
 支店 京城南山町 電話一〇七番

桃や櫻の花は今を盛りと咲き亂れ柳は緑り青山の眺は得
 も云はれぬ折柄世の粹客様方御散歩のつれ／＼是非に駕
 を枉させられたしとぞなん

京城南山町二丁目

●至急廣告●

ハナマ帽 臺灣製帽製品
合資會社

右今般韓國一手販賣特約候に付
御便宜上御注文に相應じ取次却
實可仕候間多少に不拘御用命被
度候

猶製品輸入の都合有之候に付き
季節柄此際至急御申越し願上候

明治四十一年四月
製造元


懇切な
●懇切通關●
懇切を本旨として通關を取扱
迅速を特色として送達に従事
時間御用命奉願上候

京城南大門外吉野町

●運送●
迅速運送

廣告

來る二十五日(土曜日)


 旅行用膝掛其他
 京城本町
 辻屋本支店
 電話本店二四八番
 支店三六六番
 フツマ新調
 並ニ張替
 京城旭町三丁目三月旅館前
 場所
 京城本町三丁目 伊藤友
 京城大和町 雜賀貞
 會席
 開店御披露
 御料理
 壽し並ニ仕出し
 京城長谷川町二丁目
 末廣亭
 柴物並先長

表具師 高瀬光榮堂
今般左記の處に事務所を設け一
般訴訟事件の依頼に應ず
前東洋大學校師
日本法律學士
辨護士
事務所
京城元博愛會表門通
芋洞六十四號二戸
京師省 產婆 藤井 ハナ
京城永樂町三丁目
免許

本場 桑澤工塲
迅速叫喚を旨とし染色艶麗にして確
なるは本工場の特有なり
龍山元町四丁目 今村村跡
本店 仁川理事廳通(電話三三番)
支店 京城南山町(電話一〇七番)

原金旅館

